

狂犬病疑い動物の移送・解剖・除染・廃棄 におけるバイオセーフティ

国立感染症研究所
獣医科学部
堀田明豊

バイオセーフティとは

バイオハザード防止対策

- ・ 起こりうる事態を予測分析
- ・ 必要なハード面の対策
- ・ ソフト面でルールを策定
- ・ 万一のミスや事故に対する対策
- ・ 実験者等の教育と訓練

イヌからヒトに伝播されうる感染症

ウイルス 狂犬病、SFTS

細菌 ブルセラ症、レプトスピラ症、**パスツレラ症、
仮性結核、カブノサイトファーガ感染症**など

真菌 皮膚糸状菌症、疥癬

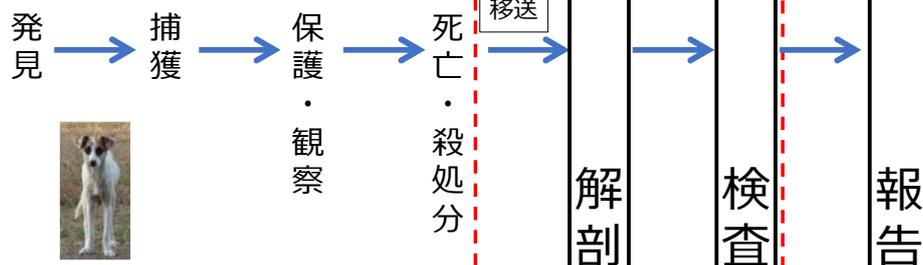
寄生虫 **エキノコックス症**、回虫幼虫移行症

* 青字：イヌは無症状

異常無いイヌも病原体を保有する可能性がある

狂犬病疑い動物の検査の流れ

・生体の場合



・死体の場合



動物の移送

- 体液滲出などの防止のため、三重包装
- 輸送前に必ず輸送先の担当者に連絡
- 長距離移動の場合、検体の冷却に努める。



動物移送に有用な物品

解剖室



バイオセーフティ対応解剖室



ビニールシートで覆った折りたたみ机

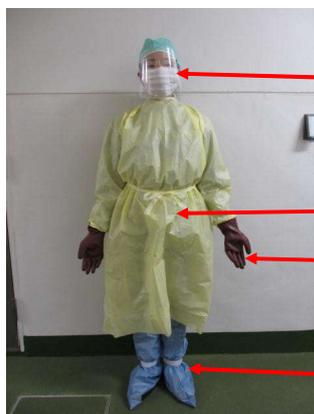
- 遮断可能で、十分なスペースがあり、換気や除染が容易な区域
- 安定した解剖台

解剖器具類（同等品を推奨）



解剖術者

- ・ 基準微生物実験技術
- ・ 個人用防護具 Personal Protective Equipment (PPE)



- ・ ディスポキャップ
- ・ フェイスマスク
- ・ ディスポマスク
- ・ ディスポガウン
- ・ ゴム手袋（二重）
- ・ 長靴またはディスポの靴カバー

① マスクの装着方法



① ヒダが下向き、ノーズピースが上側にして上紐を結ぶ



② ノーズピースを指で押さえて鼻の形に合わせる



③ 顎までヒダを伸ばし下紐を耳の下側を介し結ぶ



④ 上と下の紐は交差させない頬や顎部分に隙間を作らない使用後は紐を持って外す

① 手袋の外し方 (1例)



① 手首に近い部分の外側を掴む



② 手袋の内側が表になるように外す

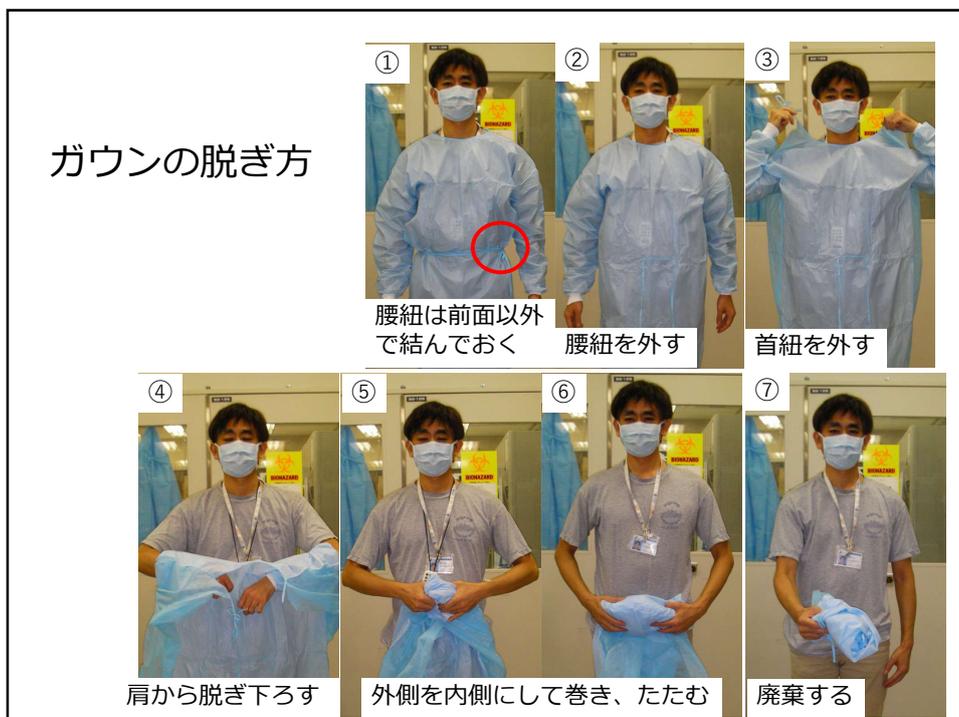


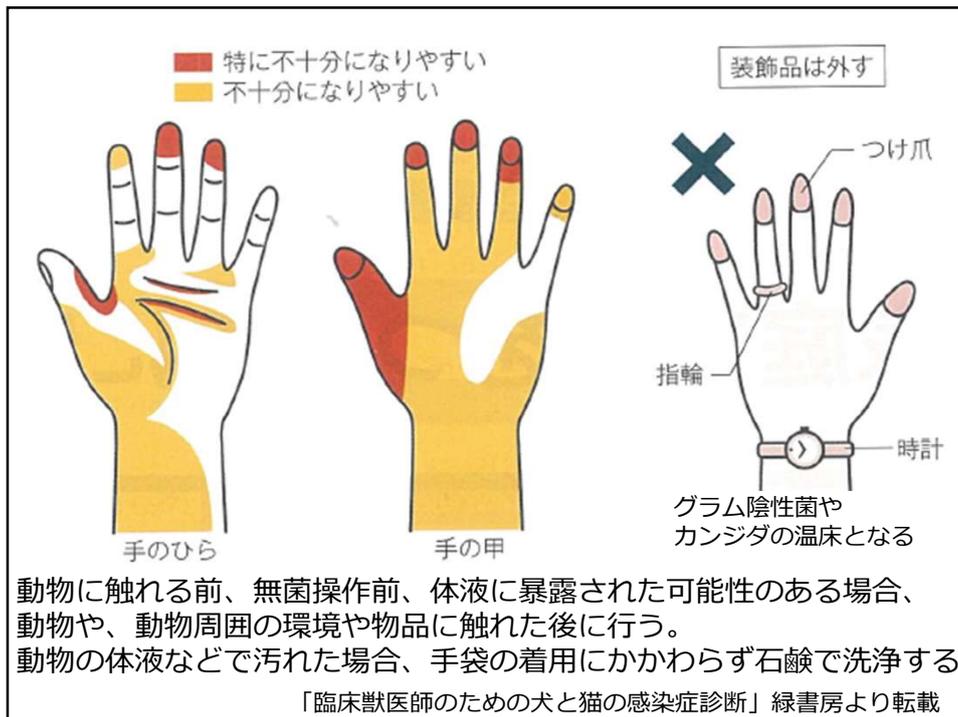
③ 外した手袋を手袋着用の手で握る



④

* 手袋の内外を見易くするため、内側に白、外側に青の手袋をしています。





施設・器具の除染と検体等の廃棄

- 動物を入れた袋の外側を消毒し、トレーなどに載せ、焼却、滅菌機器に移動する。
- PPEの外側を素手で触らない様に外す。
- 長靴や解剖器具は消毒剤に漬ける。
- 検体を実験室外に移動する場合は二重包装にする。

剖検場所以外を汚染しないようにする



想定される事故等と対策

- **解剖時の受傷**
消毒剤、洗剤、救急用具、予備の個人用防護具
- **動物からの体液漏出**
ベンチシート、吸水シート、袋、消毒剤など
- **外部寄生虫の逃走**
殺虫剤、ガムテープ、ピンセット、密閉容器など

剖検作業は必ず複数人で実施する